

BUSINESS REPORT

第106期 近況報告 2017.4.1 ▶ 2018.3.31



証券コード 3580



●財務ハイライト

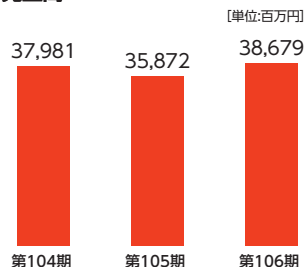
・2018年3月期業績

売上高	38,679百万円
営業利益	2,151百万円
経常利益	2,805百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,135百万円

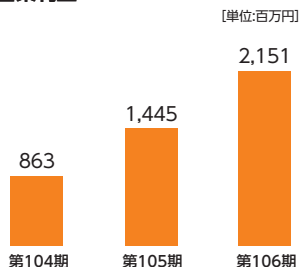
・2018年3月期のポイント

1. 当初の計画を上回り、増収増益を達成。
2. 海外企業との提携を含め、海外売上が拡大。
3. メディカル分野・生活関連分野は順調拡大。

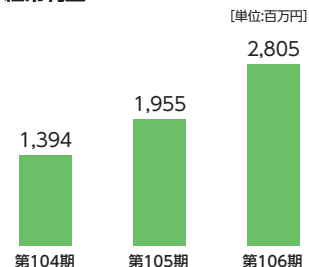
売上高



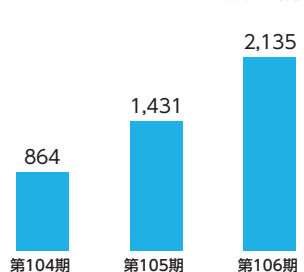
営業利益



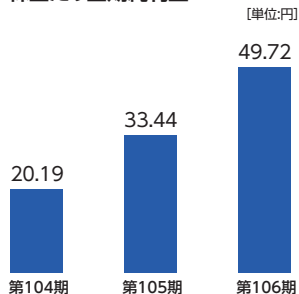
経常利益



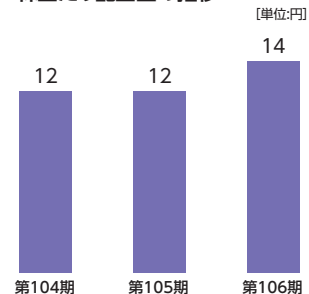
親会社株主に帰属する
当期純利益



1株当たり当期純利益



1株当たり配当金の推移



● トップメッセージ

あしたを引き寄せる新しい価値を育てる。
どこにでもある素材を
どこにもない素材に。

株主の皆様には日頃のご支援に心より感謝申し上げます。景気の先行きは依然として不透明な状況が続いていますが、当社グループは計画を上回る業績を達成することができました。ただ、周りを見渡すと予想を上回るスピードで社会が変化しています。一人ひとりが成長を遂げ、変化に立ち向かう企業風土を築いていかねばなりません。引き続き、株主の皆様のご理解をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 池田 哲夫



Q1 2月に上方修正を行うなど、当期は予想を上回る勢いでしたが。

池田 当初の計画を上回るとともに、増収増益を達成しました。主力の繊維事業は、衣料ファブリック部門で欧州や韓国など海外向けのファッション分野およびスポーツ分野が順調に拡大しました。2015年に韓国のコーロングループと業務提携した効果が、商品開発や売り上げに寄与するようになりました。今後もコーロングループとは、提携事業の拡大で引き続き連携を強めています。

資材ファブリック部門は、リビング分野において国内需要が低調となり、車輦内装材も北米向けが減少しました。一方、医療・福祉のメディカル分野および生活関連資材分

野は順調に拡大し、部門全体は増収となりました。

販売数量等の回復と構造改革の進捗により、営業利益は改善が進みましたが、本年に入って原燃料費の上昇があり、厳しい環境になっています。中国・蘇州の子会社は当期に入って再び赤字に転落し、来期は黒字浮上すべく対策を講じてゆきます。

Q2 重点課題である「生産性の向上への取り組み」は順調に進みましたか。

池田 2年前から工場の生産性を10%高めようという目標を掲げ、業務のスピードアップと生産のローコスト化を進めていますが、道半ばの状況です。少量多品種の製品が多

いうえに、うち6割が受注品です。電車のような複雑で緻密なダイヤが組めればよいのですが、1つの工程が終わって次の工程に移るものが多く、前段取りと後段取りでロスも生じます。つまり、私たちの仕事は想定外の“変数”をいかに読み、生産性と品質を両にらみしながら進めなければならないのです。

計画的に設備投資は続けています。もちろん機械設備そのものの改良や更新で対応できるものもありますので、その努力も続けています。先々、いま話題のAI(人工知能)やIoT(Internet of Things:モノのインターネット)の活用などを視野に入れ、1分当たりの生産数量を最大化したいと考えています。

Q3 「先端技術を活かした新たな価値の創造」にも注力していますね。

池田 最近では合成繊維をさまざまなニーズに合わせて改質し、環境配慮型素材や天然風味の素材に加工するとともに、透湿・防水・防臭・吸汗などの特性を持つ高機能ファブリックを数多く手掛けています。

今年3月に発表した『Karl Karl-KS[®](カール・カールケーエス)』のリニューアル製品は、合成繊維に天然素材の表面感や手触りを維持しつつ、軽くてふっくら、軽くてあったかいという特徴があります。レギュラーポリエステル系(PET)使いの場合と比べ、同じカサで約3割の軽量化、同じ重さで約3割の厚みアップとなりました。ファッション衣料、スポーツ衣料、インテリア全般、靴、靴などに展開でき、3年後をめどに10億円の販売を計画しています。

もう一つ紹介しましょう。廃棄されるタマネギの皮から抽出した成分をベースに、さまざまな天然成分を配合して

染色したテキスタイル『Onibegie[®](オニベジ)』が売上げを伸ばしています。「環境にやさしい」というコンセプトにくわえ、化学染料だけでは表現できないナチュラルな色が目にやさしいと評判です。

当社の開発組織は、研究開発センターとファッションセンターの2つですが、染色加工で培った豊富な要素技術があります。ただし、自社内ですべてを完結するというスタンスではなく、異業種・異業界との協業によって新たなイノベーションを創出してきました。また、産官学による戦略的連携によって、炭素繊維複合材料『カボコーマ』のような有望な新素材を生み出しています。先頃パリで開催された世界最大の複合材料展示会「JEC World 2018」の建築・インフラ部門で『カボコーマ』が日本企業初となる「JEC賞」を受賞しました。こうした積み重ねもあって、最近では小松精練と組めば新しいものが生まれるという評価をいただくようになりました。

Q4 今後を占ううえで、「海外市場・非衣料分野の強化」もテーマです。社長の構想をお聞かせください。

池田 「国内と海外」「衣料と非衣料」の売上げ比率を50対50に近づけたいという思いがあります。当期末で、海外は36%、非衣料は26%にすぎません。この2つには“伸びしろ”が大きいと考えています。

海外からお話すると、海外売上げの多くは、日本から海外に販売したものがほとんどです。海外の連結対象会社に中国の小松精練(蘇州)有限公司がありますが、ようやく黒字に転じたかと思うと再び赤字になるという苦しい状況です。13年前、中国に進出した目的はコスト低減で、生

産したものの大半は日本向けでした。この10数年で、中国を取り巻く市場環境は激変し、現在は13億人を抱える大きな市場となっています。私たちとしては日本で蓄積した技術を移転し、中国の市場にふさわしい“地産地消”を進めるとともに、中国蘇州ブランドとして東南アジアや欧米市場の開拓に乗り出しています。日本と中国拠点が連携できれば、海外比率は一気に高まるものと期待しています。

もう一つの非衣料分野ですが、当期は足利市に本社のある腰痛ベルトやサポーターの部材に強いセイホウをグループ会社化しました。こちらを含めて、医療・福祉のメディカル分野や機能材料を中心とした生活関連資材分野が順調に拡大しました。また、当社工場が排出する汚泥などの廃棄物をリサイクル加工したハイテクエコ素材「グリーンビズ」などの建築用資材も有望です。「グリーンビズ」は、屋上緑化から路面用、壁面用へと用途を広げており、社会が求める環境づくりに寄与するもの。自信を持って販売に注力したいと思います。

Q5 来期の業績見通はいかがでしょうか。

池田 来期は11年ぶりに売上高400億円(前期比3.4%増)を超えたいと考えています。また、営業利益23億円(同6.9%増)、経常利益29億円(同3.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益22億円(同3.0%増)の見通しです。世界の景気動向や為替動向に想定を超える大きな変化がない限り、達成可能であると考えています。

Q6 今年、小松精練は設立75周年を迎えます。次の100年に向けて、グループで共有すべき“強み”をどのように考えていますか。

池田 当社は「先端ファブリックメーカー」を標榜し、「いま世の中にあるものを使って、世の中にないものに変えていくこと」を目指しています。海外有力ファッションブランドの多くが、当社の素材を競って使うようになり、高い評価を得ています。トップブランドの経営者やデザイナーは、常に斬新な素材を追い求めています。ただ、この分野の数量は限られており、一方で数量を追える汎用品の拡販が不可欠となります。

あらためて考えると、当社の事業で10年先、20年先もこれなら大丈夫と胸を張って言えるものは残念ながらありません。言葉を代えれば、「だからこそ、たえず新しいもの、だれにもマネのできないもの」を、どん欲に追求しなければなりません。

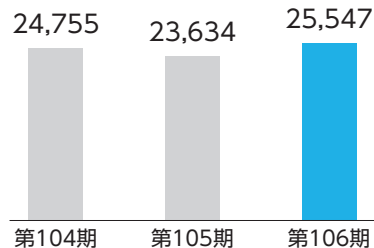
小松精練は、1943(昭和18)年の設立から今年75周年を迎えます。だれよりも経験豊かな中山賢一会長を先頭に、一人ひとりの従業員の熱い意欲を燃やしていかねばなりません。一つだけ自信を持って言えるのは、新しい何かをやるうと決めたとときのPDCAの回転の速さでしょうか。ご存知のようにPDCAは、「Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)」からなる生産性向上のための手法ですが、新しいことにチャレンジするという勇気だけでなく、途中の経過をしっかりとらみ、これからも改善につなげていきたいと思っています。引き続き、株主の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

●セグメント別の概況

衣料ファブリック部門

売上高

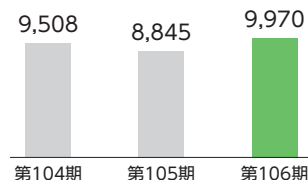
25,547百万円 (前期比 8.1%増)



衣料ファブリック部門は、海外において高感性・高機能素材の開発と市場導入を進めてまいりました。なかでも海外向けファッション分野、海外向けスポーツ分野については順調に拡大し増収となる一方、中東向け民族衣装は市場動向により減収となりました。国内向けでは総じて厳しい市場環境にあるなか、ファッション分野が微増にとどまり、スポーツ分野は苦戦を強いられ減収となるものの、当部門全体は増収となりました。

資材ファブリック部門

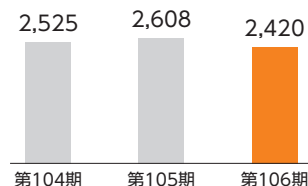
売上高 **9,970**百万円 (前期比 12.7%増)



資材ファブリック部門は、リビング分野においては国内需要が低調となり、車輦内装材についても北米向けが減少したことに伴い、減収となりました。一方、医療・福祉のメディカル分野及び生活関連資材分野は順調に拡大し増収となり、当部門全体は増収となりました。

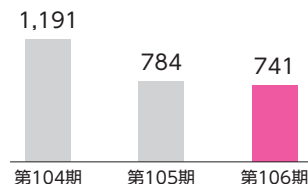
製品部門

売上高 **2,420**百万円 (前期比 7.2%減)



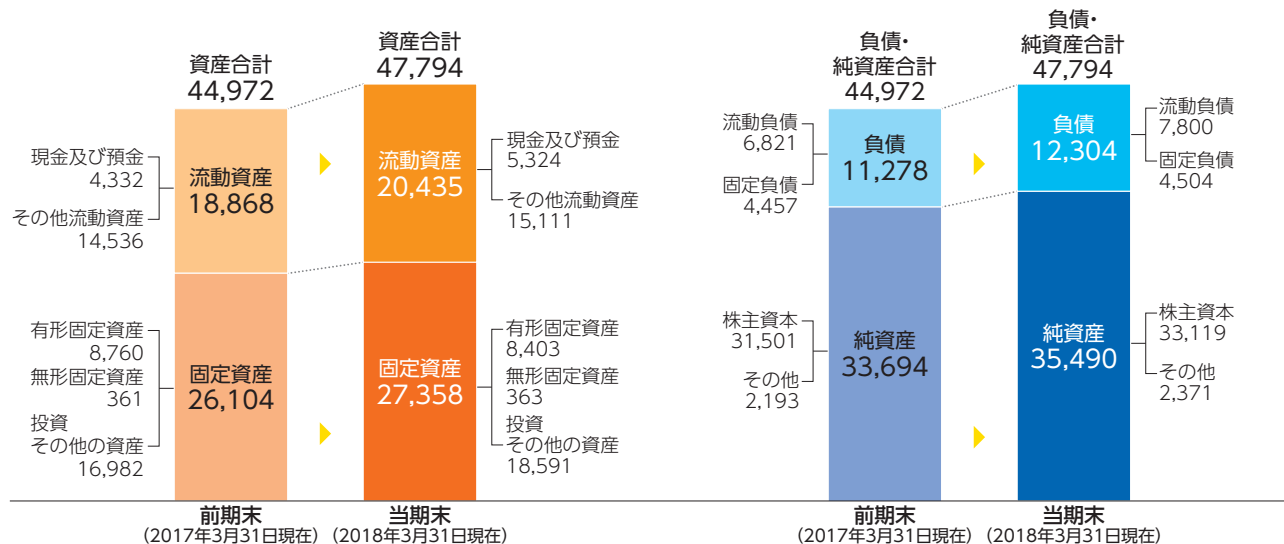
物流物販事業

売上高 **741**百万円 (前期比 5.4%減)

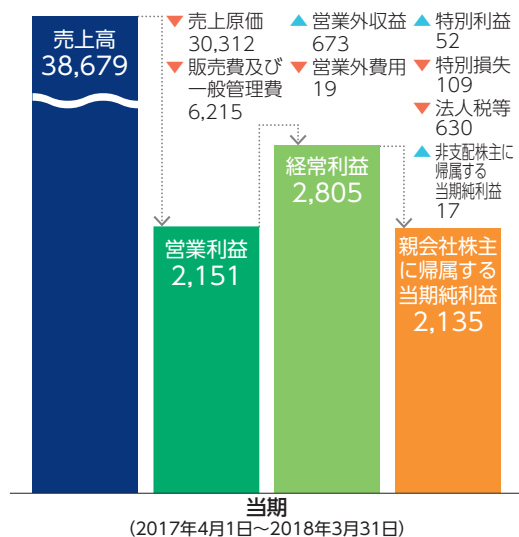


● 連結決算概要

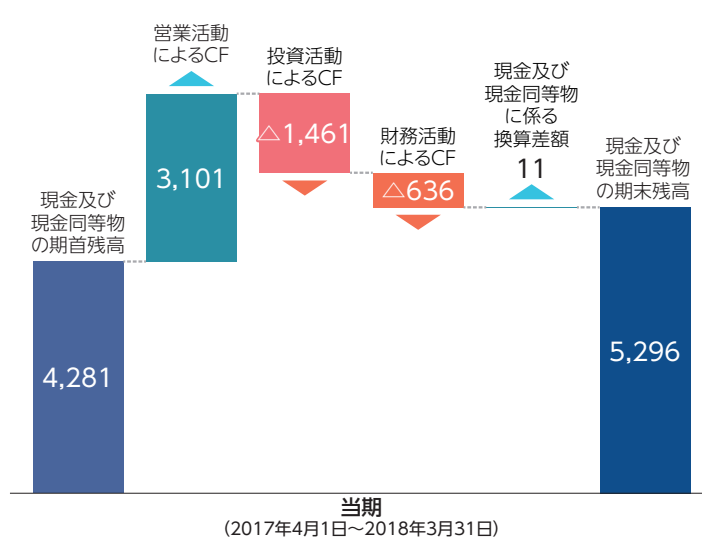
連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



Topics



軽くてふっくら、あったかい

「Karl Karl-KS[®]」が生まれ変わって本格登場

繊維素材の製造を行う㈱アイ. エス. ティ（滋賀県大津市）と共同開発した新感覚合成繊維「Karl Karl-KS[®]（カール・カール ケーエス）」の進化モデルが発表されました。

新生「Karl Karl-KS[®]」は、合成繊維にウールのような表面感や手触り感を維持しつつ、標準的なポリエステル糸使いの場合と比べ、同じカサで約3割軽く、同じ重さで約3割の厚みアップを実現しました。

「Karl Karl-KS[®]」はアイ. エス. ティが独自に開発した「Karl Karl[®]」をベースに、小松精練の高次後加工技術を融合させて2015年に発売を開始しました。

その後、市場ニーズに合わせて改良を続け、生まれ変わった「Karl Karl-KS[®]」は、風合いをウール素材により近づけるとともに、天然成分を配合した染色「オニベジ」による加工や透湿防水素材「サイトス」と組み合わせできるなど多様な機能も付加が可能になりました。さらに製造工程を見直し、価格を3割引き下げました。

今後はファッション衣料、スポーツ衣料、インテリア全般、バッグ、靴などに展開し、3年後をめどに販売額10億円の達成を目指します。



新しい質感の素材で新しい表現を

素材展「MONALISA S⁺展示会」を開催

当社と服飾地大手のスタイレム㈱（大阪市）は、当社のデジタルプリントファブリック「モナリザ」を使って流行の柄を表現し、さらに光沢や凹凸など多彩な後加工を施した生地約200点を展示する素材展「MONALISA S⁺展示会」を3月に東京・原宿で開催しました。

両社の共同展示会は、昨年に続いて今年で2回目。白色が中心だった昨年に比べると、今年は柄物が豊富に用意された他、さまざまな後加工を施して素材の質感をグレードアップさせました。

また、今年はファッション衣料以外に、新たにスポーツ用に防風加工した製品や、女性用の靴やバッグ向けの製品も展示しました。

斬新な質感を持った素材の提案を求める声が高まる一方で、市場は二極化しているといわれており、高価格帯だけだった昨年に比べると、今年は価格の幅も広がりました。

今年の秋にパリで開かれる国際生地見本市「プルミエール・ヴィジョン」にも出展し、本格的に海外販売にも乗り出す計画です。



Topics

Topics

3

韓国コーロングループと協働事業を拡大へ

東京・銀座で共同開発素材展を開催

当社は2015年に韓国の繊維大手であるコーロングループ傘下の繊維素材メーカーであるコーロン・ファッション・マテリアル（KFM社）と包括提携を結び、新素材の共同開発を進めてきました。2017年11月、この間の提携の成果を明らかにする中間報告会を兼ねて、共同開発素材展を銀座で開催するとともに、コーロングループを率いる会長の李雄烈氏をはじめKFM社長の崔碩洵氏らも参加して、共同記者発表会を開催しました。

当社とKFM社は、2020年までを3段階に分けて事業をステップアップさせる「アクションプラン2020」を掲げ、2020年までに売上高50億円（当社10億円+KFM社10億円+共同事業30億円）の達成を目指します。

コーロングループは、ファッション、スポーツ、車両資材、メディカルなども手掛けており、今後、当社とコーロングループは炭素繊維複合材など次世代素材での協業を視野に、人材交流などにも力を注ぎます。

なお、この日の展示会には、天然皮革よりも軽く、加工がしやすい人工皮革の「KOMAPELLE（コマペレ）」やコーロン原糸を使用した独自のスウェード調素材である「KOMASUEDE（コマスエード）」を用いた製品のほか、当社の強みである最先端の染色加工技術を用いたファブリック製品を多数展示しました。

コーロングループ

1957年に繊維関連の企業として発足した韓国財閥の1つ。韓国で初めてナイロン原糸を生産。現在は持株会社を含めて9社からなり、繊維にとどまらず建設、電機、化学など幅広い領域で事業を展開しています。

KFM社

コーロングループの1社として2008年にスタート。合成繊維の製造・販売と染色加工を行っています。



「カボコーマ・ストランドロッド」がJEC賞を受賞

当社の熱可塑性炭素繊維複合材料「カボコーマ・ストランドロッド」が、3月にフランス・パリで開催された世界最大の複合材料展示会「JEC World 2018（以下JEC展）」において「建築・インフラ部門」で“JEC Innovation Awards（以下、JEC賞）”を受賞しました。

当社は、共同開発した金沢工業大学革新複合材料研究開発センターと、接着部分の樹脂を提供いただいているナガセテムテックスをパートナーとする3者共同でエントリーしました。日本企業では、これまで3社が受賞しており、当社が4社目となります。また、「建築・インフラ部門」では、日本で初めての受賞となりました。

施工性が高い為、従来の建築における課題であった工事費用の大幅なダウンを実現した点、また、結露しにくく、高強度、軽量であることから、木材にやさしい素材として重要文化財等の耐震補強材料分野を切り開いた功績が評価されました。

今回のJEC賞受賞や、今年見込まれているJIS認定により、建築補強用引張材としての「カボコーマ・ストランドロッド」が、新たな建築素材として認知され、また、新たな市場を生み出すことで、今後の普及が進んでゆくものと期待されます。



「建築・建材展2018」に出展

当社は3月、東京ビッグサイトで開催された「建築・建材展2018」に出展しました。建築・建材展は住宅・店舗・ビル等に用いられる各種建材や設備機器、ソフトウェア、工法などを幅広く紹介する国内最大規模の建築総合展です。

当社展示ブースは、開催期間中は設計事務所、ハウスメーカー等の建築関係を中心に多くの方が来場し、予想以上の反響がありました。当社ファブリック・ラボラトリー「fa-bo」（2015年11月竣工。設計：隈研吾建築都市設計事務所）の知名度の高まりとともに、「カボコーマ・ストランドロッド」への関心も高く、当製品が業界に浸透し始めていることがうかがえました。

現在、世界的にグリーンインフラ^{*}に注目する企業が多く、当社「グリーンビズ[®]」については、国内だけでなく、海外のお客様からも多くの関心を集めました。特に、壁一面を利用し大面積で展示した内装材や雑草抑制パネルが好評を博しました。

^{*}自然環境が有する機能をさまざまな課題解決に活用する考え方



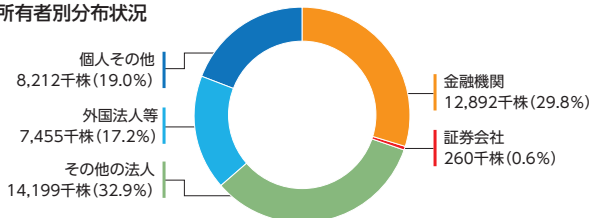
発行済株式総数

43,140,999株

株主数

5,141名

所有者別分布状況



大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東レ株式会社	3,749	8.71
THE SFP VALUE REALIZATION MASTER FUND LIMITED	3,377	7.85
株式会社北國銀行	2,113	4.91
小松精練松栄会	1,465	3.40
日本生命保険相互会社	1,284	2.98
株式会社北陸銀行	1,263	2.93
三菱商事株式会社	1,250	2.90
三井住友信託銀行株式会社	1,230	2.85
株式会社クラレ	1,090	2.53
THE CHASE MANHATTAN BANK,N.A. LONDON SPECIAL OMNIBUS SECS LENDING ACCOUNT	954	2.21

(注)持株比率は自己株式を控除して計算しております。

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社株主名簿管理人
事務取扱場所 大阪府中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 0120-782-031

URL <http://www.smbt.jp/personal/agency/index.html>

1単元の株式の数 100株

公告の方法 電子公告(当社ウェブサイトに掲載)
<http://www.komatsuseiren.co.jp/investor/index.html>
※事故やその他やむを得ない事由が生じた場合、日本経済新聞に掲載して行ないます。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等について

株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。また、証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関の上記電話照会先にお申し出ください。なお、単元未満株式の買取・買増の当社にかかる手数料はいずれも無料となっております。

会社情報

役員 2018年6月22日現在

代表取締役会長 中山 賢一	取締役 奥谷 晃宏	監査役 高木 泰治
代表取締役社長 池田 哲夫	取締役 向 潤一郎	監査役 尾野寺 賢
常務取締役 中山 大輔	取締役 福井 敏明	監査役 根上 健正
	取締役 松尾 千洋	監査役 坂下 清司
	取締役 鳥越 和峰	
	取締役 阪根 勇	

グループ会社

小松精練（蘇州）有限公司	中国・江蘇省蘇州市
株式会社コマクソン	石川県能美市
株式会社コマツインターリンク	石川県能美市
株式会社パツソ	東京都渋谷区
株式会社セイホウ	栃木県足利市

会社の概況

商号 小松精練株式会社	大阪営業所 大阪府大阪市北区梅田2丁目2番22号 (ハービスENTオフィスタワー8階)
設立年月日 1943年10月8日	東京営業所 東京都中央区銀座3丁目9番7号 (トランス銀座ビルディング8階)
資本金 46億8,042万円	本社 〒929-0124 石川県能美市浜町又167番地
本社工場 同上	北陸営業所 石川県能美市浜町又167番地 (小松精練株式会社 本社2階)
美川工場 石川県白山市鹿島町1号7番地1	上海事務所 上海市延安西路2200号 (上海国際貿易センター1913号)



小松精練株式会社

www.komatsuseiren.co.jp/